

令和 5 年度 学校評価報告書（自己評価書・学校関係者評価書）

令和 6 年 2 月 2 9 日作成

中期目標	重点努力目標（評価項目）		自己評価	総合評価	達成状況と成果	関係者評価	学校関係者の意見・要望	今後の改善方策 次年度への課題 （★学校関係者評価を受けて）
活躍の場「思考力・表現力・実践力の育成をめざした授業づくり」と感動的な行事の創造	思考力・表現力・実践力の育成	・授業において、思考する、表現する、話し合う、体験する等のアウトプット活動を積極的に実施する。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>多くの生徒が、調べ学習や話し合い活動などにしっかり取り組んでいると感じている。しかし、学習内容の理解ができていないと回答する生徒・保護者もあり、学校の学習支援はまだみだである。「自分にとって必要なことは何か」を生徒自身に考えさせ、その日に取り組む平日課題の質・量を生徒自身が選択した。</li> <li>学校は自分たちの意見等を取り入れてくれていると生徒は感じている。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校からの課題については、量よりも質が大切である。3年生は夏休みの課題（冊子）を選択できるのがよい。生徒一人一人の目標に合わせた課題選択ができるとよい。</li> <li>3年生を送る会を参観した。生徒たちがのびのびと活動している中学生の姿をみる事ができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「学校での学習だけでは不足している部分を補充する」など、課題に取り組む目的を生徒に明確にしていける。またアンケートで「家庭学習が少ない」と答えた保護者が多いので、このような保護者の思いも考慮して、学習に取り組みせていきたい。</li> <li>生徒の意見を取り入れながら、生徒と教職員が一緒に行事を創り、生徒の活躍の場を設定していく。</li> </ul>
	感動的な行事の創造	・生徒の思いを大切に、生徒と教職員が協働して感動的な行事を創りあげる。	A					
認められる場「自他のよさを認める意識の向上」	生徒のよさ・成長を認める意識の向上	・全教職員で全生徒のよさ・成長を見逃さず、認める指導を徹底する。	B	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分（子ども）のよさを見つけ、認めてくれていると感じる生徒・保護者が年々増えている。</li> <li>級長会を中心に学年レクを企画・運営した。また「あいさつ運動」「ほめるんウィーク」などを生徒会執行部や各委員会が企画し、自他のよさを見つける活動、生徒が活躍する場を設定することができた。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>先生たちの言葉がけによって、「僕はできるんだ」という思いにつながっていく。今後も褒めることば、認めることばをかけていってほしい。</li> <li>3年生を送る会では、生徒が自分の能力を十分発揮していた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒のがんばりを認める声かけ、やる気を起こす声かけなど、温かいことばがけをしていく。</li> <li>いろいろなことにチャレンジしたいという生徒の思いを大切に、多くの子が活躍できる場を設定していく。また学年レクなどを企画・運営し、自他のよさを見つける活動、生徒が活躍する場を設定していく。</li> </ul>
	相互評価・自己評価の実施	・授業、短学活、行事等に、自分自身や友達のよさを見つける活動を積極的に位置づける。	A					
活動の充実 「安心してできる場」人間関係づくり	人間関係づくりの活動の充実	・お話しタイムを継続・発展させるとともに、構成的グループエンカウンター等の活動を充実させる。	A	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>多くの生徒・保護者が「学校に楽しく通っている」「学校は、自分（子ども）の相談にのってくれている」と回答している。</li> <li>担任からの声かけ、適応指導教室（さきゆりルーム）の活用を積極的にすすめた。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>不登校については、地域としても手助けしたいが、個々の事情があるので難しい面がある。</li> <li>生徒の本音にせまれる、そして安心を感じられる学校であり続けてほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒、保護者との信頼関係を大切に、安心して過ごせる学校であり続けたい。</li> <li>不登校の要因はさまざまである。今後も、不登校生徒それぞれの様子を把握し、個々に合った居場所づくりを進めていく。</li> </ul>
	不登校生徒への対応	・不登校生徒の居場所づくりを進めるとともに、すべての生徒が安心して生活できるようにする。	B					
域・小学校との連携推進 小中一貫教育の充実による保護者・地域・小学校との連携推進	保護者・地域・小学校との連携推進	・第Ⅲ期の実践（キャリア教育の充実）を行い、小中一貫教育の一層の充実を図る。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>中学校教員による小学校への乗り入れ授業、児童生徒の情報交換、4校合同研修を行った。</li> <li>4校異学年交流会、小6の合唱コン参加、ホープ相談など、小中交流ができた。今年度は異学年交流会を2回行った。</li> <li>学級・学年通信、学校だよりやHPで学校生活の様子等の情報発信をした。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>乗り入れ授業のおかげで、小学生にとって知っている先生が中学校にいたという安心感がある。</li> <li>合唱コンに参加した小6は、中学校の雰囲気よさを感じている。体育祭を見学させてもよい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>小中との交流活動の手応えを感じることができているので、来年度も乗り入れ授業、異学年交流会などを継続し、4校の児童生徒の成長につながる実践をしていく。</li> <li>学校の様子をHPや学校だより等できめ細やかに知らせしていく。</li> </ul>
		・学校ホームページの充実を図り、保護者・地域への情報発信を積極的に行う。	A					

【自己評価 A：十分に達成されている B：概ね達成されている C：あまり達成されていない D：ほとんど達成されていない】

【総合評価 自己評価をもとに 上記のA・B・C・D で評価】

【関係者評価 A：適切である B：概ね適切である C：あまり適切ではない D：適切とは言えない】